

昭和42年度冬作関係除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和42年度冬作関係（麦・なたね・いぐさ・水稻刈取跡多年生雑草対象）除草剤の作用および適用性判定試験成績の概要について紹介する。

1) 供試除草剤の動向

供試除草剤数について対象別の傾向を示すと、第1表の通りで、麦類対象の試験は麦作付面積の減少に伴ない激減し、一方、水稻刈取跡の多年生雑草防除用薬剤が増加している。また、後者の場合には近年の傾向として、ただ単に一つの多年生雑草のみの防除でなく、あわせて一年生雑草をも対象とする薬剤が大部分となっていることが注目される。

2) 昭和42年度試験結果の概要

冬作用として昭和42年度に供試された薬剤数は、さきに述べたとおり89薬剤、153場

所であり、その成分を示せば第2表のとおりである。

これらの中で、除草効果・薬害等の面から有望であることが認められて、実用化に移されることになったものは、第3表に示す通り合計15薬剤であった。なお、このうち一部のものは既に前年度より実用化が認められていたが、これらはさらに適用地帯・適用時期の拡大や効果の再確認等を目的として試験されたものである。これら実用化薬剤を対象別にみると、麦類用4薬剤、イグサ用1薬剤、水稻刈取跡マツバイ用6薬剤、同ミズガヤツリ用4薬剤となっている。

実用化の認められた除草剤の使用基準を示すと第4表のとおりである。

なお、詳細については、当協会発行の昭和42年度冬作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績集録（既刊）、同要録（印刷中）を参照されたい。

<第1表> 冬作関係除草剤試験供試薬剤数の推移

対 象	試 験 年 次 別 供 試 薬 剤 数					
	38	39	40	41	42	43
麦 類	45	30	25	13	7	9
な た ね	5	6	4	4	4	3
い ぐ さ（七島イ）	0	1	6	4	4	3
水稻刈取跡マツバイ	6	9	9	7	15	7
ミズガヤツリ	7	7	8	3	6	8
ヒ ル ム シ ロ	0	8	2	1	2	0
ク ロ グ ワ イ	0	0	1	0	0	1
休 閑 田	0	0	1	6	0	0
そ の 他	24	32	20	12	1	1
計	87	88	76	50	39	32

<第2表>

供 試 薬 剤 成 分 一 覧 表

対 象 作 物	薬 剤 名	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率	委 託 会 社 名
〔Ⅰ〕 麦 類	HW-40187乳剤	3,5-ジメチル-4'-ニトロフェニルエーテル 25%	保 土 谷 化 学
	H-669乳剤	3-(8,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチルウレア〔リニュロン〕 15% イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト〔C1-IPC〕 85%	丸 和 物 産
	CYPROMID乳剤	3,4'-ジクロロシクロプロパンカーボキサニリド 24%	東 陽 通 商
	" 水和剤	同 上 50%	東 陽 通 商
	TO-2水和剤 (C M P T)	5-クロル-4-メチル-2-プロピオンアミドチアゾール 50%	三 井 東 圧 化 学 (東 洋 高 圧)
	S M H-17液剤	3,5-ジヨード-4-ハイドロキシベンゾニトリル(Na)〔アイオキシニル〕 20% 2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸(Na)〔MCP-Na〕 20%	塩 野 義 製 薬
	MO-500乳剤	2,4-ジクロル-6-フルオロ-4'-ニトロジフェニルエーテル 25%	三 井 東 圧 化 学 (三 井 化 学)
〔Ⅱ〕 な た ね	S-4159水和剤	O-2,6-ジターシャリブチル-4-メチルフェニル-N-メチルカーバメイト 80%	住 友 化 学
	S-4160水和剤	O-メチル-N-(4-アミノベンゼンスルホニル)カーバメイト 50%	住 友 化 学
	HW-40187乳剤	〔麦類の項参照〕	保 土 谷 化 学
	MO-500乳剤	〔同 上〕	三 井 東 圧 化 学
〔Ⅲ〕 い ぐ さ (七島イ)	SW-6701水和剤	3-(2-メチルフェノキシ)ピリダジン 50%	三 共
	SW-6702粒剤	SW-6701 1.7% PCP-Na 15.0%	三 共
	UC-22463粒剤	3,4-ジクロルベンジルメチルカーバメイト 5%	長 瀬 産 業
	C1-IPC粒剤	イソプロピル-N-(3-クロロフェニル)カーバメイト 5%	クロロIPC普及会
〔Ⅳ〕 甘 し ゃ	SW-6701水和剤	〔いぐさの項参照〕	三 共
〔Ⅴ〕 水稻刈取跡 (1)マツバイ	SW-6701水和剤	〔同 上〕	三 共
	M&B9057水和剤	O-メチル-N-(4-アミノベンゼンスルホニル)カーバメイト 75%	塩 野 義 製 薬
	塩素酸ソーダ水溶剤	NaClO ₃ 98%	保 土 谷 化 学 ク ミ ア イ 化 学 (東 亜 農 薬)
	塩素酸ソーダ + 2,4-PA水溶剤	〔現 地 混 合〕	昭 和 電 工
	2,4-PA+ATA 粒剤	2,4-PA(Na) 6% 3-アミノ-1,2,4-トリアゾール(ATA) 3%	石 原 産 業 日 産 化 学

対 象 作 物	薬 剤 名	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率		委 託 会 社 名
〔V〕 水稻刈取跡 (1) マツバイ	2,4-PA+ATA 水溶剤	2,4-PA (Na) ATA	60% 28%	石 原 産 業 日 産 化 学
	Amic-K 粒剤	イソプロピル-N-(3-クロルフェニル) カーバメイト[C1-IPC] 2-メチル-4-クロルフェノキシ酢酸アリル [AM]	5% 4%	石 原 産 業
	" 乳剤	C1-IPC AM	25% 20%	石 原 産 業
	I H-625 水和剤	3-(3,4-ジクロルフェニル)-N-メトキシ -N-メチルウレア[リニロン] 2-(2-メチル-4-クロルフェノキシ) プロピオン酸[MCPP]	37.5% 25%	ク ミ ア イ 化 学 (イハラ農薬)
	SE-401 水溶剤	スルファミン酸アンモニウム	97%	昭 和 電 工
	SE-402 粉剤	スルファミン酸アンモニウム	70%	昭 和 電 工
	HW-901 水溶剤	スルファミン酸アンモニウム	97%	保 土 谷 化 学
	HW-902 粉剤	スルファミン酸アンモニウム	70%	保 土 谷 化 学
	DIC-115水和剤 (CPH)	2-メチル-4-クロルフェノキシアセトヒドラジド	50%	大 日 本 イ ン キ
	パラコート 液剤	1,1-ジメチル-4,4'-ビピリジリウムジクロイド	20%	ICI, 日本農薬, 武 田 薬 品
〔VI〕 ミズガヤツリ	塩素酸ソーダ水溶剤	[マツバイの項参照]	98%	保 土 谷 化 学 ク ミ ア イ 化 学 昭 和 電 工
	塩素酸ソーダ+2,4- PA 水溶剤	[マツバイの項参照]	98%	保 土 谷 化 学 ク ミ ア イ 化 学 昭 和 電 工
	パラコート 液剤	[マツバイの項参照]	20%	ICI, 日本農薬, 武 田 薬 品
	OK-6511 液剤	フェノキシ酢酸 マレイン酸ヒドラジド	21% 9%	大 塚 化 学
	C P D 微粒剤	PCP-Na 2,4-D (Na)	7.0% 8.2%	協 和 化 学
	SE-401 水溶剤	[マツバイの項参照]	97%	昭 和 電 工
〔VII〕 ヒルムシロ	M&B9057水和剤	[マツバイの項参照]	75%	塩 野 義 製 薬
	SMH-17 液剤	Ioxynil MCPA	20% 20%	塩 野 義 製 薬

< 第 3 表 > 実 用 化 判 定 一 覧 表

区 分	実 用 化	実 と 継	継 続	継 ？	中 止
(1) 麦 類		HW-40187 乳 (播種後) CYPROMID 乳 (播種前) CYPROMID (播種前)水和 T O - 2 水和 (生育期)	H - 6 6 9 乳 (播種後) SMH-17 液 (生育期) MO-500 乳		H - 6 6 9 乳 (生育期)
(2) な た ね			S-4160水和 (播種後) HW-40187乳 (播種後) MO-500 乳		S-4159水和 (播種後・生育期) HW-40187乳 (生育期)
(3) イ グ サ	C I - I P C 粒		U C - 22463粒		SW-6701水和 SW-6702 粒
(4) 早 堀 甘 藷			SW-6701水和		
(5) 水稲刈取跡 多年生雑草 イ) マツバイ 対象	パラコート 液	塩素酸ソーダ + 2.4 P A 水溶 2.4 P A + A T A 水溶 S E - 4 0 1 水溶 S E - 4 0 2 粉 D I C - 115水和	SW-6701水和 塩素酸ソーダ水溶 2.4 P A + A T A 粒 A M I C - K 乳 I H - 6 2 5 水和 HW-901水溶 HW-902 粉		M & B 9057水和 A M I C - K 粒
ロ) ミズガヤツ リ対象	パラコート 液 C P D 微粒	塩素酸ソーダ + 2.4 P A 水溶 O K - 6 5 1 1 液	塩素酸ソーダ水溶 S E - 4 0 1 水溶		
ハ) ヒルムシロ 対象			SMH-17 乳		M & B 9057水和

< 第 4 表 > 昭和 4 2 年度冬作関係実用化除草剤使用基準一覧表

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
麦 類	HW-40187 乳剤	土壌処理	播 種 後	120~160cc	壤土~埴土 (砂壤土を除く)	水田裏作麦圃	
	CYPROMID 乳・水和剤	播種前 雑草処理	稲刈取前後 ~作畦前 スズメノテツ (ボウ) 2~4葉期	乳80~120cc 水和40~60g	全 土 壤	排水良好な水田裏 作麦の不整地播地 帯	

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
麦 類	TO-2 水和剤	雑草処理	・広葉雑草発生 寸前～8.4葉期 ・スズメノテッポウ 発生寸前 ～2葉期	40～80g	畑作麦： 洪積火山灰土 水田裏作麦： 全土壌	○広葉雑草優占の 畑作小麦 ○スズメノテッポ ウ優占の水田裏 作麦	適期に散布する
イグサ	CI-IPC 粒剤	湛水土壌 処理	2月下旬 ～3月上旬	800～400g	壤土～埴土 (極端な漏水 田は除く)	全 域	適期使用 均一散布
水稻 刈取跡 マツバイ	パラコート液剤	雑草処理	稲刈取後 10～30日	30～40cc	全 土 壤	○暖地全域 ○寒地は早生水稻 栽培地帯	○マツバイの枯葉 出現前に散布 ○落水後均一散布
	塩素酸ソーダ + 2,4PA 水溶剤	雑草処理	稲刈取後 (9月中旬まで)	40+2.2 ～60+1.5	沖積 壤土～埴壤土	全 域	○マツバイの枯葉 出現前に散布 ○連年使用をさける
	2,4PA+ATA 水溶剤	雑草処理	稲刈取後 7日以内	16～20g	全 土 壤	稲刈取時の気温が 18℃以上の地帯	マツバイの枯草が 始まる前に処理する
	SE-401 水溶剤	雑草処理	稲刈取後 10日以内	500～600g	全 土 壤	一毛作の早期及び 早植栽培地帯で、 冬季排水良好な水 田	○落水後均一散布 ○連年使用はさける ○腐蝕性があるので 使用後器具をよく洗滌のこと
	SE-402 粉剤	同 上	同 上	900～1,200	同 上	同 上	同 上 ○マツバイの地上 部のぬれている 時均一散布
	DIC-115 水和剤	雑草処理	稲刈取後 10日以内	30～40g	全 土 壤	寒地を除く早期栽 培地帯(東北以南) で、9月中旬まで に稲を刈取る水田	○落水後均一散布 ○直播栽培および 苗代予定地での 使用はさける
ミズガヤ ツリ	パラコート液剤	雑草処理	稲刈取後 ミズガヤツリ 塊茎形成始期 まで(9月下 旬まで)	20～40cc	全 土 壤	早期および早植栽 培地帯	○ミズガヤツリ再 生後散布 ○落水後均一散布
	CPD微粒剤	雑草処理	同 上	250g	全 土 壤	早期および早植栽培 地帯で、稲刈取が9 月中旬までの地帯	同 上

区 分	除 草 剤 名	処 理 法	処 理 時 期	使 用 量 (製品 g/a)	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使用上の注意
水稻 刈取跡 ミズガヤ ツリ	塩素酸ソーダ + 2,4 P A 水溶剤	雑草処理	稲刈取後 9月中旬まで	40+2 ～60+1.5	沖積 壤土～埴埴土	北陸地域の9月上 旬までに水稻刈取 する地帯	○ミズガヤツリ再 生後茎葉によく かかるように散 布 ○連年使用をさけ る
	OK-6511 液剤	雑草処理	稲刈取後 塊茎形成始期 まで (9月下旬ま で)	100～167	全 土 壤	早期栽培地帯	○ミズガヤツリ再 生後落水均一散 布 ○散布後1日以内 は降雨のないと き散布

昭和43年度水稻作関係除草剤 試 験 成 績 概 要 (1)

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和43年度水稻作用新除草剤の試験成績検討会が昨年12月10～12日の8日間、東京において開催されたので、ここにその結果の概要について紹介する。

1) 供試除草剤の動向

まず、今年度供試された薬剤は、移植栽培本田用108剤、稚苗移植用(田植機)11剤、苗代用11剤、湛水直播栽培用5剤、乾田直播栽培用8剤、合計138薬剤であった。

次に、今年度の試験から注目される点を2～3あげてみると、除草剤合成改良面からは①国産除草剤の増加(移植本田用では82%)②カーバメイト系除草剤の進出が目立つこと(同24剤)③土壌処理剤間の混合剤化が多くなったこと、などの傾向がみられる。一方、利用場面・作用特性の面からは、①処理適期幅の広い除草剤が多くなったこと。②雑草種類間の選択殺草

性が小さく、また1年生雑草・多年生雑草の同時防除を目的とする除草剤の開発が盛んであること。③殺草(抑草)効果の持続性の長いものが多くなる傾向、などの作用特性のうえからも特徴ある除草剤が出現してきたことが注目される。

2) 試験結果の概要

今年度試験に供試された除草剤の成分を示すと、第1表の通りである。

それらの中で、除草効果・薬害などの点から有望であることが認められて実用化に移されたものは、移植本田用46剤、稚苗移植用3剤、苗代用2剤、湛水直播用2剤、乾田直播用1剤の合計54剤となっている。

また、適用性試験の判定結果を第2表に示した。

なお、実用化の認められた除草剤の使用基準